



1 学校教育目標

- 小中一貫教育目標 …… 「ふるさとを愛し、ふるさとの人々からも愛される子どもたち」の育成
○地域や清掃活動、部活動、各種大会における生徒の取組は意図的である。
○オンライン学習 …… ①自ら学ぶ意欲、②自律性、③主体的な学び、④課題解決力、⑤協働力、⑥創造力、⑦表現力、⑧コミュニケーション能力、⑨情報活用能力、⑩キャリア教育の推進
○中・長期目標 …… ①自己指導能力を身に付けさせることにより、将来、自己実現を図ることのできる(自立した)生徒を育成する。
②生徒、及び、教職員が自信と誇りを持ち、つなぐ(つなぐ)の学校づくりを推進する。また、生徒・保護者・地域住民が「行きなれる」「行かせる」学校をめざす。
③市内外に誇れる小中一貫教育校(施設一体系、分離型の共有)として自立する。

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)

- 生徒は落ち着いた学校生活を送っており、生徒会を中心として様々な行事や取組を活性化させようとする努力している。
○小中一貫教育の推進に向けて、4校で準備が進み、カリキュラム編成作業が順調に進み、ほぼ完成に近づいている。また、その研修体制が整うとともに、多くの教職員の意識が高まっている。
○授業は落ち着いた雰囲気の中で進んでいるが、「主体的・対話的で深い学び」を意識したグループ学習や伝言活動は不十分である。
●施設一体系・分離型を併設する小中一貫教育校の推進、その特色を生かしたシステムの構築が必要である。また、地域学習協議会や地域協働ネットワークとの連携と活動の活性化が課題である。
●生徒指導では、不登校が前年より多く、小中学校からの継続して発生している生徒もいる。多くの場合、家庭でも課題があり、関係機関と連携したさらなる働きかけが必要である。また、家庭に課題を抱えた生徒がいる。
●教職員の業務改善が大きな課題であり、「ワケアヒラクス」の視点での業務改善とともに、行事や活動の精選が急務である。

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組みと課題

- I 生徒の学習環境を整え、個に応じた、基礎・基本の定着と確かな学力の向上を図る
II 生徒の規範意識の醸成と、教養と信頼に基づいた生徒指導を推進する(寄り添い、関わり続ける生徒指導)
III 豊かな心と自己づくりを推進し、生徒の心身の元気を創出する
IV 校内研修を充実させ、資質(授業力・指導力・危機対応力等)の向上を図る
V コミュニケーション力や小中一貫教育を両輪に、地域・家庭から信頼される学校づくりを推進する
VI 教職員の業務改善を一層推進し、協働・共有のあり方のある学校づくりを行う
VII 教職員の協働性、同僚性、相互支援意識の醸成、人材育成の推進
【生活目標(チャレンジ目標)】
スローガン: 喜びを共有し、今日出逢う人々に
□ 立ち止まってあきらめ、心を閉ざさず
□ 感謝し清く、心を磨こう!
□ 美し思いやりのある言葉で、心を伝え合おう!

4 自己評価

Table with 5 columns: 評価領域, 重点目標, 具体的方策(教育活動), 評価基準(ポイントは4点満点), 取組状況および成果・課題【ポイント】は関連質問, 達成度, 重点目標の達成状況の診断・分析, 学校関係者からの意見・要望等, 評価. Rows include: 教育課程・学習指導(I-IV), 家庭学習の充実, わかる授業、できた喜びを愛感できる授業の展開, 生徒の規範意識の向上と寄り添う指導, 特別支援教育の視点に立った生徒指導, 生徒会活動の活性化, 家庭・地域社会との連携, 小中一貫教育の推進、確立, 人材育成, 業務改善, 働き方改革に向けた意識改革.

6 学校評価総括(取組の成果と課題)

今年度も、学校評価と授業評価を前期・後期に実施した。評価項目は経年変化を見るため大きく変えず、また、小中一貫教育への質問を4校で統一した。その結果のみならず、学校運営協議会委員の意見を反映させたものを保護者に発信した。
(1) 生徒指導 基礎・基本の定着の定着、及び、学習意欲向上のための取組が構築できた。また、個別指導を充実させることで意欲を高め、生徒の学習意欲の向上に貢献した。
(2) 地域学習 コロナ禍においても、学校支援・地域学習協議会活動は活性化している。特に、学校支援ボランティアを広く募集してきている。また、CS、地域協働ネットワークの役割を明確にして、協働が機能している。
(3) 業務改善 授業時数確保をしながら、各種会議や研修会を充実させることが必要である。行事や諸活動の見直しを進める必要がある。また、小中の教職員・児童生徒間の交流をより活性化させる必要がある。
(4) 人材育成 小中一貫教育の推進、業務改善、働き方改革を推進する。特に、授業力・指導力・危機対応力等の研修を充実させる必要がある。また、業務改善の一環として、協働・共有のあり方のある学校づくりを行う。
(5) 業務改善 業務改善を推進する。特に、業務改善の一環として、協働・共有のあり方のある学校づくりを行う。
(6) 働き方改革 働き方改革を推進する。特に、業務改善の一環として、協働・共有のあり方のある学校づくりを行う。

7 次年度への改善策

- 1 学習指導 基礎・基本の定着の定着、及び、学習意欲向上のための取組が構築できた。また、個別指導を充実させることで意欲を高め、生徒の学習意欲の向上に貢献した。
2 地域学習 コロナ禍においても、学校支援・地域学習協議会活動は活性化している。特に、学校支援ボランティアを広く募集してきている。また、CS、地域協働ネットワークの役割を明確にして、協働が機能している。
3 業務改善 授業時数確保をしながら、各種会議や研修会を充実させることが必要である。行事や諸活動の見直しを進める必要がある。また、小中の教職員・児童生徒間の交流をより活性化させる必要がある。
4 人材育成 小中一貫教育の推進、業務改善、働き方改革を推進する。特に、授業力・指導力・危機対応力等の研修を充実させる必要がある。また、業務改善の一環として、協働・共有のあり方のある学校づくりを行う。
5 業務改善 業務改善を推進する。特に、業務改善の一環として、協働・共有のあり方のある学校づくりを行う。
6 働き方改革 働き方改革を推進する。特に、業務改善の一環として、協働・共有のあり方のある学校づくりを行う。